

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

清川村教育委員会

1 調査の概要について

(1) 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【文部科学省 HP より引用】

(2) 調査実施日 令和6年4月18日(木)

(3) 調査の内容

- ◇小学校第6学年・中学校第3学年の全児童・生徒を対象
- ◇教科に関する調査は国語、算数・数学を出題

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のために構想を立てて実践し評価・改善する力 等

- ◇生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査を実施

(4) 調査に参加した児童・生徒数

	国語	算数・数学	児童・生徒質問紙
小学校	19人	19人	19人
中学校	21人	21人	21人

(5) 全国・県・村の公立学校の参加状況

	小学校	中学校
全国(公立)	18,529校	9,347校
神奈川県	853校	418校
清川村	1校	2校

2 各教科の平均正答率

令和6年度 各教科平均正答率一覧（単位は％）

	教科	清川村	神奈川県	全国
小学校	国語	68	67	67.7
	算数	56	64	63.4
中学校	国語	60	59	58.1
	数学	58	54	52.5

※県・村の正答率は整数表示

3 令和6年度 全国学力・学習状況調査 調査結果概要

小学校 ※「学習指導要領の内容・領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

【国語】

※青数字は+5ポイント以上 赤数字は-5ポイント以上の差

分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)			比較		
			清川村	県(公立)	全国(公立)	県(公立)	全国(公立)	
全体		14	68	67	67.7	1.0	0.3	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	64.5	62.3	64.4	2.2	0.1	
		(2) 情報の扱い方に関する事項	89.5	87.7	86.9	—	—	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	73.7	73.3	74.6	0.4	-0.9	
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	63.2	60.3	59.8	2.9	3.4
		B 書くこと	2	81.6	68.3	68.4	13.3	13.2
		C 読むこと	3	59.6	69.6	70.7	-10.0	-11.1
評価の観点	知識・技能	6	70.2	68.3	69.8	1.9	0.4	
	思考・判断・表現	8	66.4	65.8	66.0	0.6	0.4	
	主体的に学習に取り組む態度	0	—	—	—	—	—	
問題形式	選択式	10	67.4	70.1	69.9	-2.7	-2.5	
	短答式	2	68.4	55.5	59.7	12.9	8.7	
	記述式	2	71.1	61.9	64.6	9.2	6.5	

【算数】

分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)			比較	
			清川村	県(公立)	全国(公立)	県(公立)	全国(公立)
全体		16	56	64	63.4	-8.0	-7.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	50.9	66.5	66.0	-15.6	-15.1
	B 図形	4	63.2	66.2	66.3	-3.0	-3.1
	C 測定	0	—	—	—	—	—
	C 変化と関係	3	52.6	52.6	51.7	0.0	0.9
	D データの活用	4	53.9	53.9	61.8	0.0	-7.9
評価の観点	知識・技能	9	63.7	73.0	72.8	-9.3	-9.1
	思考・判断・表現	7	46.6	52.5	51.4	-5.9	-4.8
	主体的に学習に取り組む態度	0	—	—	—	—	—
問題形式	選択式	5	64.2	75.8	75.3	-11.6	-11.1
	短答式	7	54.9	62.9	62.0	-8.0	-7.1
	記述式	4	48.7	51.1	51.0	-2.4	-2.3

中学校

※「学習指導要領の内容・領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

【国 語】

※青数字は+5ポイント以上 赤数字は-5ポイント以上の差

分 類	区 分	対象 問題数	平均正答率(%)			比 較		
			清川村	県(公立)	全国(公立)	県(公立)	全国(公立)	
全 体		15	60	59	58.1	1.0	1.9	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	57.1	60.0	59.2	-2.9	-2.1
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	59.5	60.3	59.6	-0.8	-0.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	81.0	74.8	75.6	6.2	5.4
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	65.1	59.9	58.8	5.2	6.3
		B 書くこと	2	59.5	66.8	65.3	-7.3	-5.8
		C 読むこと	4	52.4	48.5	47.9	3.9	4.5
評価の観点	知識・技能	6	61.9	62.6	62.0	-0.7	-0.1	
	思考・判断・表現	9	58.2	56.4	55.4	1.8	2.8	
	主体的に学習に取り組む態度	0	—	—	—	—	—	
問題形式	選択式	9	64.0	62.0	62.0	2.0	2.0	
	短答式	3	61.9	61.8	61.8	0.1	0.1	
	記述式	3	44.4	46.5	45.5	-2.1	-1.1	

【数 学】

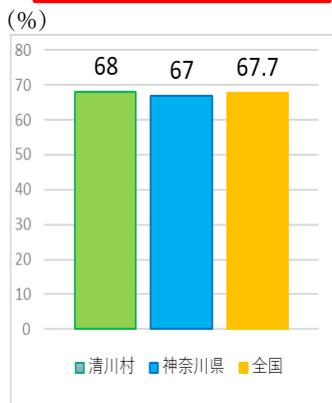
分 類	区 分	対象 問題数	平均正答率(%)			比 較	
			清川村	県(公立)	全国(公立)	県(公立)	全国(公立)
全 体		16	58	54	52.5	4.0	5.5
学習指導要領の領域	A 数と式	5	54.0	54.3	51.1	-0.3	2.9
	B 図形	3	43.3	42.5	40.3	0.8	3.0
	C 関数	4	67.5	61.8	60.7	5.7	6.8
	D データの活用	4	62.5	55.6	55.5	6.9	7.0
評価の観点	知識・技能	11	69.1	64.6	63.1	4.5	6.0
	思考・判断・表現	5	32.0	31.6	29.3	0.4	2.7
	主体的に学習に取り組む態度	0	—	—	—	—	—
問題形式	選択式	5	62.0	58.8	58.5	3.2	3.5
	短答式	6	75.0	69.4	67.0	5.6	8.0
	記述式	5	32.0	31.6	29.3	0.4	2.7

令和6年度全国学力学習状況調査の分析と今後に向けて

清川村教育委員会

【小学校】

国語の正答率



【強み】

≪全国の平均正答率と比べて上回っているもの≫

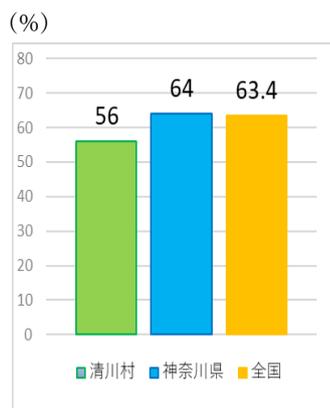
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。
- 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。
- 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。

【課題】

≪全国の平均正答率と比べて課題と考えられるもの≫

- 分の中における主語と述語との関係を捉えること。
- 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。

算数の正答率



【強み】

≪全国の平均正答率と比べて上回っているもの≫

- 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できる。
- 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。
- 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる。

【課題】

≪全国の平均正答率と比べて課題と考えられるもの≫

- 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すこと。
- 速さの意味について理解すること。
- 示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断すること。

【今後の学習指導に当たって】

≪国語≫

主語と述語との関係について、低学年から繰り返し指導すること。読むことにおいては、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して判断できるようにすることが大切である。また、「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことが、物語の全体像を具体的に想像するために重要である。

≪算数≫

問題を読み、「多い」のだから加法、「少ない」のだから減法、のように形式的に立式するのではなく、問題場面を図に表し、その図と問題文のそれぞれの数量関係を比較し、捉えることができるようにすることが大切。速さの学習においては、道のりと時間が比例関係にあることに着目して、速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解できるようにすることが重要。

※【今後の学習指導に当たって】は、国立教育政策研究所が作成した報告書より抜粋

【児童質問紙調査の結果（全国と比べて肯定的な回答割合が高い○ 低い●）】

- 将来の夢や目標を持っている。
- 先生が自分のよいところを認めてくれている。
- 学校で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日、週3回以上活用している。
- 平日も土日も1日あたりに勉強する時間が少なく、テレビゲームやスマートフォンに費やす時間が多い。
- 総合的な学習の時間において、自分で課題を立て情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組む機会が少ない。

【質問紙調査と教科の正答率の関連性についての分析結果（クロス集計）】

【正答率が上位となった子どもの特徴】

- 5年生までに受けた授業で、ICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると感じている。
- 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると感じている。

1 ICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると感じますか。	平均正答率（%）	
	国語	算数
肯定群平均	76.5	59.7
否定群平均	38.1	32.3

2 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができますか。	平均正答率（%）	
	国語	算数
肯定群平均	71.2	61.2
否定群平均	65.2	52.3

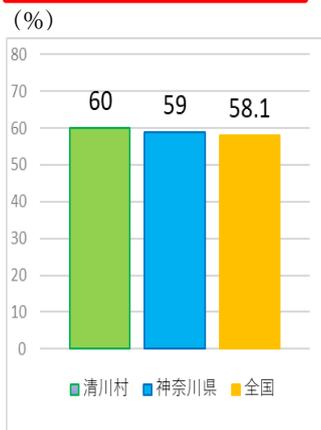
【今後に向けて】

《質問紙調査から》

- 「先生はあなたのよいところを認めてくれている」という回答が県や全国と比較して多いことから、先生たちが一人ひとりのよいところを積極的に認めてくれていることがわかります。自分のよいところをほめてもらったり、がんばりを認めてもらったりすることが自己肯定感を高めることにつながっています。また、将来の夢や目標を持っているという回答も多いので、今後も自他のよいところを積極的に認め合える関係を大切にしていって、将来の夢や目標に向かって自信をもって活動に取り組んでいきましょう。
- 学校でPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日、週3回以上活用していることが県や全国と比較して多い傾向があります。昨年に引き続き、GIGAスクール構想に先駆けて配備されたタブレット端末が、学校で積極的に活用されていることがわかります。今後は、授業の中での協働学習に活用したり、家庭学習等においてもタブレット端末をより計画的・効果的に使ったりすることで、授業の中で培ってきた情報活用能力に、さらに磨きをかけていきましょう。
- クロス集計で示されているとおり、授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると各教科の平均正答率が高くなる傾向にあります。学習した内容を授業の中の知識として留めるだけではなく、自分の生活に照らし合わせて生かせる場面について考える機会を増やしていきましょう。ICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりすることによって、より深い学びにつなげていくことを大切にしていきたいと思います。

【中学校】

国語の正答率



【強み】

≪ 全国の平均正答率と比べて上回っているもの ≫

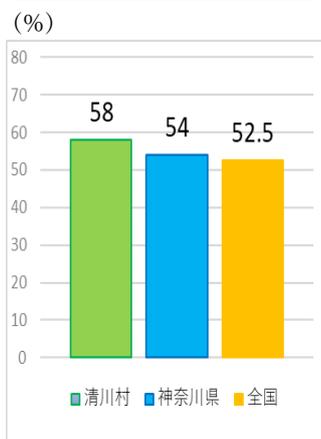
- 必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる。
- 文章の全体と部分との関係に注意しながら主張と例示との関係を捉えることができる。
- 文の成分の順序や照応について理解している。

【課題】

≪ 全国の平均正答率と比べて課題と考えられるもの ≫

- 意見と根拠など情報との関係について理解すること。
- 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

数学の正答率



【強み】

≪ 全国の平均正答率と比べて上回っているもの ≫

- 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができる。
- 与えられたデータから最頻値を求めることができる。また、複数の集団データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
- グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができる。

【課題】

≪ 全国の平均正答率と比べて課題と考えられるもの ≫

- 一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解すること。
- 統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を用いて説明すること。

【今後の学習指導に当たって】

≪ 国語 ≫

原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などの基本的な情報と情報との関係について理解し、実際の話や文章の内容を理解したり精査したりする際に、その関係を捉えることができるようにすることが大切である。そのためには、話し合いの中での発言などを取り上げ、どの部分が意見でどの部分が根拠なのかを確かめたり、根拠が意見を支えるものになっているかを確かめたりするなど、文脈の中で具体的にとらえることができるように指導することが効果的である。また、文章を読んで内容を理解したり、理解したことを伝えたりするには、目的の応じて必要な情報に着目して要約することが必要である。

≪ 数学 ≫

一次関数 $y = ax + b$ のグラフについて、 a や b の値の増減によってグラフが変化する様子を捉える活動を通して、式とグラフの特徴を関連付けて理解できるようにすることが大切である。また、具体的な場面における問題を表、式、グラフを用いて解決できるようにするために、問題解決の構想を立てたり、問題解決の課程や結果を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。その際、表、式、グラフを活用し数学的な表現を用いて問題解決の方法を説明できるように指導することが大切である。

※【今後の学習指導に当たって】は、国立教育政策研究所が作成した報告書より抜粋

【生徒質問紙調査の結果（全国と比べて肯定的な回答割合が高い○ 低い●）】

- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることが多い。
- 人が困っている時に、進んで助けたいと思う生徒が多い。
- 学習の中で PC やタブレットなどの ICT 機器を使う頻度が高い。
- 国語や数学など、「授業の内容がよく分かる」と感じている生徒が多い。
- スマートフォンを持っているが、家の人と使い方の約束を守っている生徒が少ない。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている生徒が少ない。

【質問紙調査と教科の正答率の関連性についての分析結果（クロス集計）】

【正答率が上位となった子どもの特徴】

- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。
- 1、2年生までに受けた授業で、ICT 機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができていると感じている。

- 1 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。

	平均正答率（％）	
	国語	数学
肯定群平均	63.0	62.6
否定群平均	61.7	51.3

- 2 ICT 機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができますか。

	平均正答率（％）	
	国語	数学
肯定群平均	63.2	61.3
否定群平均	53.3	41.7

【今後に向けて】

≪質問紙調査から≫

- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることが多い」という生徒が県や全国と比較して多い傾向にあることから、学校・家庭生活など現状に満足している幸福感の高さがうかがえます。また、「人が困っている時に、進んで助けたいと思う生徒が多い」と考える生徒が多いことから、今後も幸福感を土台として、他者への優しさを大切にする心を育んでいきましょう。
- 学校で、PC やタブレットなどの ICT 機器を使う頻度が高く、自分の考えや意見を分かりやすく伝えたり、友達と考えを比べたり共有したりする場面で、PC やタブレットなどの ICT 機器を使うことは有効であると感じている生徒が、県や全国と比較して多い傾向にあります。このことから、日々の授業の中で効果的に活用できている状態にあることがうかがえます。今後は、より効果的に活用できるような機会を積極的に捉え、活用の幅を広げていきましょう。また、活用の場面については、どの場面がより有効に活用できるのか、生徒が自ら判断できるようになっていくことが、今後の社会生活で求められる力となってきます。
- クロス集計から、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができているほど、各教科の正答率が高い傾向がうかがえます。また、ICT 機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができているほど正答率が高い傾向があることから、学習した内容や話し合った内容を自分事として捉え、適した学び方を考えたり、ICT 機器を活用した協働学習を進めたりすることで各教科に必要な能力を高めていくことが望まれます。